

## 2 歴史

約 3,700 年～約 2,500 年前の大集落跡である「国指定史跡 御経塚遺跡」や、白鳳時代の大寺院跡である「国指定史跡 末松廃寺跡」が残されており、このことははるか原始、古代から人々の生活と開発が進んだ地域であったことを物語っています。

室町時代には、地元の武士団である富樫氏の勢力が強まり、加賀国かがのくにの守護となった富樫氏は野々市に守護所を設けました。戦国時代前半まで、野々市は加賀の政治、経済、文化の中心地として栄えました。

旧北国街道が通る本町地区は、江戸時代には宿場町として栄え、現在でも国指定重要文化財である喜多家住宅や、市指定文化財である旧魚住家、水毛生家といった由緒ある建物が残っています。

また、古くから郷土に伝わる“じょんから踊り”は“野々市じょんからまつり”として現在に受け継がれ、ほかにも虫送りや野菜みこし、獅子舞などの伝統行事が受け継がれています。

現代では、昭和 30 年～昭和 32 年にかけて、野々市町、富奥村、郷村の一部、旧押野村の一部が合併し現在の市域が形成されました。